

数学

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いながら数値に着目し、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<p>ア 定期考査、小テスト等の結果から、基礎的な概念の理解や基本の計算力の個人差が大きく、基本の計算力が不十分な生徒が一定数認められる。</p> <p>イ 定期考査の結果から、問題を読み取る力、思考力を必要とする問題の正答率にばらつきがあり、正答率が比較的低い傾向がある。</p>	<p>ア 習熟度別グループ毎に適した教材を用意する。また、「満点テスト」の実施により意欲向上を図り、繰り返し学習を続けることで基礎・基本の定着を図る。</p> <p>イ 習熟度別グループ毎に適した課題を設定し、タブレット端末や大型提示装置などを使って、既習事項を利用して身のまわりの問題を解決するために話し合いや発表の機会をつくる。</p>	<p>ア 満点テストを単元ごとに2～3回実施し、長期休業明けに計算力テストを実施する。</p> <p>イ 各単元の章末に、思考力を必要とする課題に重点的に取り組む。</p>	<p>習熟度に応じて満点テストを実施し、振り返りカードを実施することで学習の気付きや発見を見出す生徒の増加が見られた。また、長期休業明けのテストにより基礎・基本の定着を図ることができた。章末に発展問題に取り組み、意欲的に解決しようとする生徒の増加が見られた。</p>
第2学年	<p>ア 定期考査、小テスト等の結果から、基礎的な概念の理解や基本の計算、数学的な処理を苦手とする生徒が少なくない。</p> <p>イ 定期考査の結果から、課題の数値に着目しながら、文章を読み取り、既習事項を活用して解決しようと考察することを苦手とする生徒が多い。</p>	<p>ア 習熟度別グループ毎に適した教材を用意する。また、「満点テスト」の実施により意欲向上を図り、繰り返し学習を続けることで基礎・基本の定着を図る。</p> <p>イ 同じ課題でも、黒板やタブレット端末、大型提示装置などを使って、習熟度別グループ毎に適した数学のイメージ作りが出来るように工夫する。既習事項を利用して身のまわりの問題を解決するために話し合いや発表の機会をつくる。</p>	<p>ア 単元ごとに満点テストを実施する。長期休業中に復習課題を出し休み明けにテストを実施する。</p> <p>イ 各単元の章末に、身の回りの問題を解決する課題や章末問題を活用して実施する。</p>	<p>習熟度に応じて満点テストを実施し、長期休業中に計算力をつける課題に取り組み繰り返し学習を続けることで力をつけてきた。定期考査の知識技能の正答率が60→63→75%と向上した。思考判断の正答率は数値的には変化がないものの図形の内容で根拠を明らかにして証明することや性質を見出して問題解決することができる生徒が増えてきた。</p>
第3学年	<p>ア 全国学力・学習状況調査の結果から、基礎的な知識や技能が身に付いてきている生徒が増加している傾向がある。</p> <p>イ 全国学力・学習状況調査の結果から、「思考・判断・表現」の観点の記述問題の正答率が全国や東京都の平均をおおむね上回っているものの、道筋を立てて考察し、記述することを課題としている生徒も一定数認められる。</p>	<p>ア 習熟度別グループ毎に適した教材を用意する。また、各単元ごとに、基礎的な知識を問う課題プリントによって基礎・基本の定着を図る。</p> <p>イ 習熟度別グループ毎に適した課題を設定し、タブレット端末や黒板などを使って、解き方を相互に説明し合う機会をつくる。</p>	<p>ア 単元ごとに基礎的な知識を問う、課題プリントを実施する。</p> <p>イ 各単元の章末に、身のまわりの問題を既習事項と結び付けながら解決する活動や章末問題を通して実施する。</p>	<p>習熟度に応じて、課題導入の仕方を工夫することで、数学的事象に主体的に取り組む生徒が増加した。単元毎に問題解決的な学習を取り入れ、話し合い活動を充実させることで、根拠をもって解法を説明することができる生徒が増加した。</p>

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等等 ICT の効果的な活用について

- ・ロイロノートで生徒一人一人が問題を解く。解答を提出箱に提出させ、それを採点し、個々の理解に応じた解説やポイントを提示し、個別最適な学びを実現する。
- ・様々な解き方をタブレット端末上で共有し合い、他生徒の考え方から新たな考え方を習得することにより、深い学びにつなげるとともに、協働的な学びを実現する。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・本時の目標を明示し、毎回の授業へ見通しをもたせる。また、新たな単元の導入時に全体の学習の流れを説明し、単元の学習内容への見通しをもたせる。
- ・単元の導入部分や発展的な学習の際に、イメージや動きのある視覚的なとらえ方ができるように、ICT 機器や大型提示装置を使用する。